



【OS】 人間拡張と 50 年の時空

[Organized session] 50 years of Human Augmentation: A Journey Through Time and Space

主催: 人間拡張研究委員会, 情報技術と文化の融合調査研究委員会

Special Interest Group of Human Augmentation, Special Interest Group of Culture and Technology

Partnering with STELARC / BUNSHIN: “Split Body” Multilateral Research Lab

概要: 人間拡張は、身体の機能や知覚をテクノロジーによって拡張する試みであり、芸術・科学・哲学の交差点で新たな人間観を提示します。本セッションは、その先駆者である STELARC 氏の実践を振り返りつつ、身体と機械の関係、人間性の再定義、そして未来社会における人間拡張の在り方を議論します。

キーワード: 人間拡張, 余剰腕, 分身, 芸術と科学

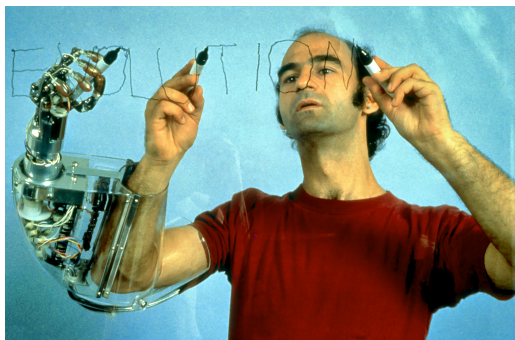


図 1: Third Hand by STELARC

Handwriting at Maki Gallery, Tokyo 1982 (Photo: Keisuke Oki)

1. 講演趣旨

本オーガナイズドセッション「人間拡張と 50 年の時空」では、パフォーマンス・アーティストである STELARC 氏をお招きし、人間の身体と技術の融合に関する 50 年以上に渡る探究の軌跡を振り返りつつ、未来への展望を議論します。1970 年の大阪万博をきっかけに日本のロボット工学に強い関心を抱いた STELARC 氏は、1980 年には日本の研究者と協力して「第三の手」を完成させ、人間拡張の象徴的作品を世界に提示しました。本セッションでは、1970–2025 年という 55 年の時間軸の中で、1970 年代から展開されてきた身体性への問い、人機融合の実践、そして現代における多元的身体「BUNSHIN」の概念までを多角的に紐解きます。STELARC 氏の 50 年以上に渡る人間拡張を軸に、芸術・科学・哲学を横断しながら人間拡張の意味と可能性を再考します。また、パネルセッションを通じて、人間拡張がもたらす社会的・文化的インパクトを含めた未来の展望についても俯瞰的に議論します。